

## バイエル教則本初版本の研究

安田 寛・多田 純一\*・長尾 智絵\*\*

奈良教育大学音楽講座  
(平成21年5月7日受理)

### Study of the First Edition of “Vorschule im Klavierspiel op.101” by Ferdinand Beyer

Hiroshi YASUDA and Junichi TADA and Chie NAGAO

(Department of Music Education, Nara University of Education)

(Received May 7, 2009)

#### Abstract

This study is the first in Japan, and perhaps in the world, to examine the first edition of Ferd. Beyer's preliminary school for the pianoforte op. 101, published by the German publisher Schott in 1850. In order to ascertain the first edition, we compared four old versions in detail: the first old version is owned by us that we bought in the antiquarian bookstore in Germany, the second old version is housed at Yale University Library, and the third and fourth old versions are in the possession of the Austrian National Library. The conclusion is that the first old version is the first edition by Shott.

**Key Words :** Ferdinand Beyer,  
piano method,  
first edition

**キーワード :** フェルディナンド・バイエル、  
ピアノ教則本、  
初版

#### 1. はじめに

日本のピアノ教育とその歴史にとって、明治から今日に至るまでバイエル教則本がいかに重要であったかについては改めて言うまでもない。例えば、グローブ音楽辞典の最新版で長く削除されてきた項目「バイエル」が復活されたのは、日本と韓国におけるバイエル教則本の重要性が背景となっている<sup>(1)</sup>。それだけに日本ではバイエル教則本についての関心が高く、これまで様々に論じられてきた。しかしながら、それらを通覧した時、バイエル教則本についての考察や議論にとって最も必要なものの一つがこれまで欠けていることに気づかされる。それは、バイエル教則本の初版である。『バイエル教則本』初版は現在、版元のショット社にもなく、稀覯本というより、これまで現存が確認されていない。

ところで、現存するバイエル教則本の諸版を比べてみ

ると相互にかなりの違いがあることが分かる。このことは現存する様々な版は初版をかなり改訂したものであることを意味する。よってもしも初版本を発見出来たなら、改訂者の意図を排除した、フェルディナンド・バイエル(1806 - 1856)がバイエル教則本を編集した本来の意図を知ることが可能になる。

発見後に期待される新しい研究と併せて考えても、バイエル教則本初版本の発見とその出版時期を確定することは、日本や韓国のピアノ音楽史やピアノ教育史にとって決して小さくはない貢献となる。

それゆえ我々は今回、ドイツ、オーストリア、アメリカで調査をし、初版かその何刷かと思われる古い版を4冊入手した。これらはすべて共通のプレート番号を持っている。10139という番号は、ショット社自身が1900年に編集した最初の出版目録によるとバイエル教則本の最初の版下のプレート番号である<sup>(2)</sup>。したがって、これ

らの版が初版かその何刷かであることはほぼ確実である。しかし、このプレート番号以外にこれらが初版本であるか否か、あるいはどれが初版なのかの判定に必要な、出版年や著作権登録年はもちろん、その他それを推定出来る手がかりとなる記載が一切ない。

そこで、今回入手した4つの古い版について、これらは初版なのか、あるいはどれが初版なのか、これら古い版の出版時期の相互関係はどうなっているのか、について以下論証する<sup>(3)</sup>。

論証の手順は次のようになる。

1) まず、4つの版の書誌に関する事実を明らかにする。

2) 次に、これまで諸説ある初版の出版年を確定する。

3) 最後に4つの版の異同を詳細に分析し、その結果を考察する。異同の分析は楽譜に関するものとそれ以外のものとの2つに分けて行う。

書誌に関する事実は、出版年を推定するために必要な最初の基礎となる。

初版の出版年を確定することが必要なのは、それがはっきりすると、それより以後に出版されたことが明らかの場合、その版は初版ではないことが確定出来るからである。

4つの版の異同の詳細からは、版相互の関係、及びその出版の順序に関する前後関係を推定あるいは考証することが出来る。

## 2. 4つの版の書誌について

以下の4つの版の名前は、相互に混同されることを避けるために筆者が便宜上つけたものである。

1) **初版本**：ドイツの古本屋から購入した版である。全体の古さ、傷み具合、頁下段にプレートナンバー10139があること、68頁という頁数、挿絵があること、値段の記載がHofmeister Monatsberichteに記載された“3 Fl. 36 Xr.”と一致することなどから初版本と推定される版である。以下に述べる3つの版に記載された値段はすべてこれとは異なっている。

2) **イエール大学蔵版**：イエール大学Sterling Memorial Libraryに貴重書として保存されている版で、そのカタログによればマインツのショット社から出版され、出版年は[185-?]と推定されている。全68頁。今回比較には写真撮影したものを使用した。

3) **ウィーン国立図書館蔵グートマン版**：ウィーン国立図書館が所蔵しているバイエルで一番古いものと推定される版(請求記号MS37151. Mus)である。全68頁。古い手書きのカードには“K. Gräfin Attems 26. 7. 1940”という記載がある。中にレッスンの時に記入されたかと思われる鉛筆での書き込みがある。伯爵夫人か令嬢かが

実際に使用していたものようである。扉に“Albert J. Gutmann, Kaiserl. u. Köningl. Hofmusikalienhandlung, Wien, K. K. Hofopernhaus”という青インクのスタンプが押されてある。ウィーン宮廷の御用達音楽書籍業者であったグートマン(1851-1915)がウィーン宮廷のオペラ劇場内に音楽書店を開いたのは1873年であった。比較にはスキャンしたものを使用した。

4) **ウィーン国立図書館蔵版**：出版地と出版年は不明とされているこの版(請求記号MS88292-4° Mus)は全72頁であることと付録の楽譜にワーグナーの「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(初演 1868年)からの編曲があることで初版本ではないことが分かる。しかし68頁までは初版本にかなり近い版であることが推定される。比較にはスキャンしたものを使用した。

## 3. 初版出版年の確定について

『バイエル教則本』初版の出版年については、これまで様々な説があり、いまだ確定していない<sup>(4)</sup>。バイエルの出版年を確定するために用いた資料はHofmeister Monatsberichteである。1807年に創業を開始したライプツィヒの出版業者Friedrich Hofmeister(1782-1864)が毎月出版された音楽図書の目録を出し始めたのは1829年のことであった。この月刊目録は20世紀半ばまで続き、19世紀の音楽書についての第一級の書誌情報である。Hofmeister Monatsberichteは現在ネット上でファクシミリとデータベースとで公開されている<sup>(5)</sup>。

Hofmeister Monatsberichteにバイエルの出版記録が最初に出てくるのは1851年1月号13頁である。次のように記載されている。

“Beyer (Ferd.) Vorschule im Klavierspiel für Schüler des zartesten Alters, enth. 106 zweihändige, dreihändige u. vierhändige Uebungsstücke, Vorübungen, Fingerübungen und Anfangsgründe der Musik (Ecole préliminaire de Piano). Op. 101. Mainz, Schott geh. 3 Fl. 36 Xr.”

1850年12月号199頁にはバイエルを出版したことを知らせるショット社の次のような広告が載っている。

“Bei B. Schott's Söhnen in Mainz erscheint mit Eigenthumsrechts: Vorschule im Klavierspiel für des zartesten Alters. (Ecole préliminaire de Piano, à l'usage des Elèves de l'age le plus tendre, dédiée aux mères de famille) von Ferd. Beyer. Op. 101. Pr. 3 fl. 36 Xr.”

この広告によって、グローブ音楽辞典(第2版)の「バイエル」に記載されているバイエル教則本の出版年を1851年頃、とする説は成り立たなくなる。1850年12月には出版されていたことがこの広告から明らかであるからである。

ショット社のアーカイヴィストからの情報によれば、

表1 4つの版の表記等の異同

扉	内容	頁	初版	イェール大学蔵版	ウィーン国立図書館蔵 グートマン版	ウィーン国立図書館蔵版
外枠				異	異	ウィーン国立図書館蔵版 出版社の記載文以外 同左
ECOLE			字体：異 白抜き	字体：異 白抜き	字体：異 白抜き	同左
Preliminaire de Piano			字体：異	字体：異	字体：異	同左
à l'usage exclusive des Elèves de l'age le plus tendre					フォントが大きい	同左
ET DEDIEE AUX MÈRES DE FAMILLE		(白抜き)	黒字		黒字 より強調される大きさ	同左
Contenant les Principes de la Musique et 106 Exemples, Etudes, Exercices Gammes et petits Morceaux			字体：異	字体：異	フォントが大きく字間が狭い	同左
PAR						同左
FERD. BEYER			字体：異	字体：異	文字の下の部分が黒	同左
Op.101					Op.101	同左
Avec un Supplément de 100 Récréations sur des Méloides favorites					字体 異	同左
出版社、出版地			異		異	異
値段			異		なし	なし
挿絵 手			黒鍵が短い		黒鍵が長い	同左
			爪がある		袖 異	同左
			手の形・影同じ		手の位置・大きさ 異	同左
			目あり カール・ドレスの形は同じだがレースがついている ヒール付の靴		アブライトピアノ	同左
挿絵 ピアノを弾く女の子			絨毯とクッション：異		女の子でなく成人女性	同左
			ピアノの蓋の内側：異			
			ピアノの彫刻：異			
序文					独文序文は An solchen Werken dürfte wohl bis jetzt Mangel sein 以下7行が省略されている。 仏文序文は、Un ouvrage semblable manquait encore jusqu'à以下8行が省略されている。	



表2 4つの版の楽譜の異同

内容	頁	初版本	イエール大学蔵版	ウィーン国立図書館蔵 グートマン版	ウィーン国立図書館蔵版
No.77-No.78	41	No.78 第8小節目、2拍目の1音目がH音のみである。	No.78 第8小節目、2拍目の1音目がH音にG音が追加され和音になっている。	同左。	同左。
No.86-No.87 (第2手)	46	No.87 第9小節目、へ音記号がない。	No.87 第9小節目、へ音記号がない。	No.87 第9小節目、へ音記号がない。	No.87 第9小節目、へ音記号がない。
No.86-No.87 (第1手)	47	No.86 第14小節目、オクターヴ記号が小節の終了までかかっている。	No.86 第14小節目、オクターヴ記号がE音で消えている。	No.86 第14小節目、オクターヴ記号が小節の終了までかかっている。	No.86 第14小節目、オクターヴ記号がE音で消えている。
No.90続き 音階 A moll No.91	49			No.91 第9小節目、左手C音の譜尾がない。	
No.100	54		No.100 第40小節目、オクターヴ記号が不明瞭に終わっている。		

バイエルの初版本について活字体で記入された社内の古いカードには次のように記録されている。

“Ferdinand Beyer , Kleine Vorschule im Clavierspiele”

“30. August 1850 / 200 Stück”

以上を総合すると、バイエル初版本は1850年8月30日に200部出版された、という結論に至る。

#### 4 . 4つの版の異同について

当論文の限られた誌面に必要な情報を出来るだけ分かりやすく盛り込むため4つの版の異同の検証結果は、表に記載した。

##### 4 . 1 . 4つの古い版の表記、割り付け、説明文及び五線の異同の検証

初版と、イエール大学蔵版、ウィーン国立図書館蔵グートマン版及びウィーン国立図書館蔵版との表記、割り付け、説明文について異同を検証したものを表1に示した。

検証の考察とまとめは以下の通りである。

扉は4つの版とも異なっている。ただしウィーン国立図書館蔵グートマン版（以下版3）とウィーン国立図書館蔵版（以下版4）の扉は同じプレートを使って印刷したもので、版4の出版社、出版地の記載箇所のみ別に印刷したものである。

初版本（以下版1）、イエール大学蔵版（以下版2）及び版3の序文は同じプレートを使って印刷されている。

版4の序文は後半の7行が省略されている。この点でも、この版が4つの版の中で最も新しい版であることが分かる。序文は、版が新しくなるほど後半が省略されて短くなる傾向にある。序文の長さは版の新しさを判定するための分かりやすい目安である。

版1と版2の挿絵は同じ図柄であるが、細部が異なっている。これと全く異なる版3と版4の挿絵は同じプレートを使用して印刷したものである。1851年にアメリ

カで最初に出版されたバイエル教則本<sup>6)</sup>にある挿絵の図柄は版1と版2の図柄と同じである。したがって版3と版4の図柄よりも版1と版2の図柄の方が古いものであると推定出来る。

割り付けは版1、版2、版3の3つとも全く同じである。版4も68頁までは全く同じである。

版1、版2、版3及び版4の最後の目次を含めた全68頁の本文は微細な違いを除けば同一である。

版3と版4は最も近い関係にある。版4は版3の最後に4頁ほど小品を付加したより新しい版である。

版1の45頁のプレート番号だけが他の頁のプレート番号より大きく印刷されている。これは初版に特有な「誤植」だと考えられ、他の3つの版では修正されている。

他にも初版特有の不備と見られるものは、17頁で複縦線からはみ出たはみ出た五線がはみ出ていること、21頁で終止線からはみ出たはみ出た五線がはみ出ていることである。

版1と比べたその他の版の微細な違いは、他には、ドットが欠けていること、ハイフンが欠けていること、“n”が“u”に、“v”が“r”に、“o”が“u”に見えることである。これらは撮影の際に何らかの事情で「飛んだ」とも考えられるが、それよりも可能性が高いのは印刷を重ねる内にプレートが摩滅し、印刷が不鮮明になったことが原因であろう。

本文に限って言えば、4つの版はほぼ同じプレートを使用して刷られている。ただし、版1で使用された17頁、21頁、45頁のプレートは、版2、版3、版4では修正されたか、新しく彫りなおされている。

以上の検証と考察から、版1が最も古い版である。次に古いのが版2と版3である。最も新しい版4は版3の最後に数頁を付加した版である、ことが明らかになった。

##### 4 . 2 . 4つの古い版の音符及び記号の異同の検証

初版本と、イエール大学蔵版、ウィーン国立図書館蔵グートマン版及びウィーン国立図書館蔵版との楽譜に関

する異同について検証したものを表2に示した。

検証の考察とまとめは以下の通りである。

音符及び記号に関する4つの版の違いはほとんどないと言ってよい程のものである。

タイとスラーについては、4つの版とも、付いている箇所も、その付け方、微細な位置も全く同じである。

バイエルは版によってスラーにかなりの違いが見られる。このことを考慮すると、4つの版のスラーが全く同じであることは、これらの版がほぼ同じプレートによって刷られていることの有力な証拠となる。

微細な違いは、印刷を重ねるうちにプレートが摩滅し、印刷が不鮮明になったことが原因と考えられるものがほとんどである。

ただし、41頁は、版1では、No.78第8小節目第2拍の1音目がH音のみであるのに対して、版2、3、4ではG音が追加されて和音になっている。

このG音は後から追加され、この部分のみプレートが後から掘り直されたと考える方が自然であろう。

以上の検証と考察からは、版1が最も古い版である。

## 5. 結論

以上、4つの版について、まず書誌に関する事実を明らかにし、次に初版の出版年を確定し、最後に4つの版の異同を詳細に分析し、その結果を考察した。これらによって以下の結論に至った。

版1は1850年8月30日にショット社から200部出版された初版の一冊か、少なくともそれと全く同じプレートを使って印刷された初版の何刷かである。

これによってこれまで不明であった初版本の現存を確認した。

残りの3つの版の関係については、版4は版3を元にしたより新しい版である。

版2と版3との関係については、それを決定的に明らかに出来る確証はないが、版1に近い挿絵を使っている版2の方がより古い版だと考えられる。

版1、版2、版3の3つの版の本文(1頁から68頁)は、17頁、21頁、41頁、45頁のプレートを除いてすべて同じプレート(プレート番号10139)を使って印刷されている。

今回我々が入手した版1が、これまで不明であった1850年8月30日に200部発行された初版が少なくともそれと全く同じプレートで印刷された何刷かであることが確定されたことで、『バイエル教則本』の研究は今後新たな段階を迎え、また新しい研究を開始することが可能になる。一例をあげるなら、日本でこれまでバイエル教則本の原典とされてきたペータース版<sup>(7)</sup>が初版とどのように違っているかが明らかにされれば、ピアノの入門書と

言えば必ずバイエルを使ってきた日本や韓国の特異な現象を解明する新しい手がかりになるであろう。あるいは、日本に最初に入ってきたバイエルはボストンのカールブリューファース社が出版したバイエル教則本であったが<sup>(8)</sup>、これと初版本とを比べることで、日本におけるバイエル教則本受容の特質が明らかにされるであろう。

## 注

- (1) 新グローブ音楽辞典(第2版)のバイエルの項目には次のように書かれている。“He is best known for his piano method *Vorschule im Klavierspiel* op. 101 (c. 1851), which has been reprinted by many publishers (including Henle, Peters, Schirmer and Universal). This widely used method gained particular renown in Japan, after the American music educator L. W. Mason imported Carl Prüfer's edition in 1880, and also in Korea.” *The New Grove dictionary of music and musicians* / edited by Stanley Sadie; executive editor, John Tyrrell. 2nd ed. London: Macmillan Publishers, 2001.
- (2) *Verzeichniss des musikalien-Verlags von B. Schott's Söhne in Mainz*. Alphabetisch geordnet und vollständig bis Ende 1899, 1900.
- (3) 初版本と推定される版を使った最初の研究は以下のものである。多田純一「『バイエル教則本Op.101』における指使いとその変遷」『創発』大阪健康福祉短期大学紀要第8号、2009年pp.53 - 65。ただしこの論考では初版本の推定に関する厳密な考証がなされていない。また著者が「1851年1月のHofmeister月刊カタログのファクシミリを確認すると、紹介されている2冊の『バイエル』は」(p.54)としているのは間違いである。一冊はバイエルのいわゆる併用曲集である。
- (4) 例えば新グローブ音楽辞典(第2版)では1851年頃としている。前掲書参照。安田は以前1851年とした。安田寛「『バイエル』はなぜ日本に来たか? 世界的大ベストセラー教本日本伝来の謎を解く」『ムジカノーヴァ』(第37巻第9号)2007年、pp.59 - 62。を参照。
- (5) ウィーン国立図書館: [http://www.onb.ac.at/sammlungen/musik/musik\\_hofmeister\\_monatsberichte.htm](http://www.onb.ac.at/sammlungen/musik/musik_hofmeister_monatsberichte.htm)  
“Hofmeister XIX”: <http://www.hofmeister.rhul.ac.uk/2008/index.html>
- (6) *Vorschule im Klavierspiel*, Ferd. Beyer's school for the piano-forte: designed for the exclusive use of young students: and dedicated to mothers of families: containing the principles of music in 106 examples, studies, gamuts, exercises, and choice easy pieces: op.101 / translated and adapted by George F. Bristow. New York: Wm. A. Pond, 1851.
- (7) *Vorschule im Klavierspiel: für Schüler des zartesten Alters: op.101* / verfasst von Fred. Beyer; revidiert von Ad. Ruthardt, Leipzig: Peters, [19--].
- (8) *Elementary Instruction Book for Piano*. Boston: Carl Prüfer, n.d.